

工業教育特別セッション

2日目・視聴覚教室 午前

10:15-11:00

本校の科学技術教育への取り組み

○赤木 潤子^{*1}

宇都宮工業高校は、大正12年創立で今年90周年を迎える伝統校です。栃木県においては、平成17年度より県立高校再編計画が策定され、さらにその具体的な計画として、平成19年度に科学技術高校整備基本計画が策定されました。本校はこの計画の中で「科学技術を目指す新しいタイプの学校」として生まれ変わることとなり、平成23年度に宇都宮市雀宮町の新校舎に移転し、スタートを切りました。実習内容を中心に、新機軸のカリキュラムについてもご紹介します。

所 属：*1 栃木県立宇都宮工業高等学校 電子情報科
(〒321-0198 栃木県宇都宮市雀宮町 52 番地)

E-mail : akaki-j01@tochigi-edu.ed.jp

短大校における職業教育について

○石川 広幸^{*1}

I Tのプロフェッショナルを目指す多様な人々に開かれた短期大学校として、幅広く県内の産業界に貢献できる高度かつ実践的な職業人としてのI T技術者を育成する為の本校における指導について。

所 属：*1 茨城県立産業技術短期大学校 指導課 情報処理科
(〒311-1131 茨城県水戸市下大野町 6342)

E-mail : ishikawa@ibaraki-it.ac.jp

茨城県の産業技術専門学院の現状

○江島 信之^{*1}

- ・茨城県立産業技術専門学院の各校の科の説明
- ・機械技術科の現状
- ・機械技術科の問題点
- ・技能検定・若年者ものづくり大会に向けての取り組み

所 属：*1 茨城県立土浦産業技術専門学院 訓練課 機械技術科
(〒300-0849 茨城県土浦市中村西根番外 50)

E-mail : n.ejima@pref.ibaraki.lg.jp

小山高専サテライト・キャンパスの設置・運営と今後の活動

○大島 隆一*1

小山高専は、国立高専機構の改革推進経費を取得し、小山高専サテライト・キャンパスを平成22年10月に発足、平成23年8月に栃木県栃木市の蔵の街にオープンした。

その活動内容は、「教育研究事業、情報発信・広報戦略活動」を目的とした講座、イベントの開催・協力、「地域貢献・地域研究事業」を目的としたイベント・フォーラムや共同研究の取り組みである。本件では、これまでの設置から運営方法、活動内容について報告する。

所 属：*1 小山工業高等専門学校 建築学科
(〒323-0806 栃木県小山市大字中久喜 771)

E-mail : o-shima@oyama-ct.ac.jp

若年者ものづくり競技大会参加を通じた人材育成

「競技職種：フライス盤」

○池田 愛彦*1

関東能開大 生産技術科では、技術革新やグローバル化の進展に対応でき、日本のものづくりを支えるため、機械加工技術を中心に製品の設計から加工、さらに品質管理なども含めた、実践的な機械技術者の育成を目指し実学一体の訓練を行っている。その中で、資格取得や競技会参加にも力を入れた教育・訓練を行っている。今回、「第7回若年者ものづくり競技大会 フライス盤部門」へ出場し優勝をおさめるまでの道程を発表する。

所 属：*1 関東職業能力開発大学校 生産技術科
(〒323-0813 小山市横倉三竹 612-1)

E-mail : Ikeda.Yoshihiko@jeed.or.jp

技能五輪における競技課題の変遷と人材育成について
～技能五輪全国大会「電子機器組立て」職種において～

○矢島 康治*1

技能五輪全国大会「電子機器組立て」職種の競技課題は、1998年第36回ぐんま大会から、国際大会の競技課題を取り入れてきた。その結果、

国際大会での成績は、常に上位を狙う順位になっている。競技で求めるスキルが、企業・学校での人材育成ニーズに合致しているため、参加選手は年々増えて、第50回大会は50人を超えた。

ここ10数年の競技の変遷や結果を紹介するとともに、企業へのインタビューをとおして競技を通じた人材育成について、報告する。

所 属：*1 神奈川県立産業技術短期大学校 電子技術科
(〒241-0815 神奈川県横浜市旭区中尾 2-4-1)

E-mail : yajima24@kanagawa-cit.ac.jp